

ディリー・ジーザス・ニュース #205

イエスの宣教

イエスの大宴会のたとえ話

ルカ14章15-24節

15 一緒に食卓にいた者の一人がこれを聞いてイエスに言った。「神の国の宴会に加わる人は幸いです。」

16 イエスは答えられました。「ある人が盛大な宴会を準備し、大勢の客を招いていました。17 宴会の時間が来たとき、イエスは召使を遣わして、招待していた人々にこう告げさせた。「さあ、来てください。すべて準備が整いました。」

18 しかし、彼らは皆同じように言い訳をし始めました。最初の人はこう言いました。「私は畠を買ったばかりで、見に行かなければなりません。お願ひです。どうかこの招待から私を解放して下さい。」

19 「もう一人は言いました。『私は牛を五組買ったばかりで、試しに今行くところです。お願ひですから、この誘いを解いてください』」

20 「また別のは、『結婚したばかりなので来られません』と言いました。

21 「僕は帰ってきて、主人にこのことを報告しました。すると家の主人は怒り、僕に命じました。『急いで町の通りや路地へ出て、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人を連れて来なさい。』」

22 「『ご主人様』と召使は言った。『ご命令どおりにしましたが、まだ席が残っています』

23 「すると主人は僕に言った。『道や小道に出て行って、人々を無理やり連れて来なさい。そうすれば私の家はいっぱいになるでしょう。24 言つておくが、招待された人の中で、わたしの宴会に出席する者は一人もいないだろう』」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT} 、マーク=^M 、ルカ =^L 、ヨハネ =^J 、使徒行伝 =^A 。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	ペレアのパリサイ人の家で
タイムライン	1月または2月(36ヶ月目と37ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第7段階: ペレアにおけるイエスの宣教
	A.ペレア全土におけるイエスの奉仕者たち

ディリー・ジーザス・ニュース #205

タイトル

4. イエスの大宴会のたとえ話

コメント：

ペレアのパリサイ人の晩餐会におけるイエスの宣教活動（ルカ14:1-24）は、別のたとえ話で終わりました。イエスは最後の言葉の結びに、最終的な復活について語られました。出席者の一人がこう答えました。「神の国で宴会に加わる人は幸いだ。」イエスのたとえ話は、まさにこの言葉について語っているのです。

永遠の天国での生活を、まるで継続する盛大な宴会のように捉えるという考えは、ユダヤ教において一般的でした。イエスはこのたとえ話のように、ご自身のたとえ話の中で一貫してこの考え方を用いています。さらに、新約聖書では、この「宴会」とは実際にはイエスご自身と、花嫁である教会との結婚の宴であると明記されています。

祝宴、あるいは晩餐の例えは、二つの重要な概念に基づいています。一つは、祝宴に必要なすべてのものを備え、準備するのは神であるということです。イエスの時代には、そのような祝宴を主催できたのは裕福な人だけでした。すべては事前に綿密に準備されなければなりません。主人が客を呼んだとき、「すべて準備が整いました」と言ったことに注目してください。神は私たち一人一人を、ご自身があらかじめ完全に準備された救いを経験するよう招いておられます。すべては準備されており、私たちが信仰によって受け取るのを待っています。

宴を楽しむために必要なのは、招待状を受け取ることだけでした。主催者は事前に招待状を出し、準備が整ったら客がすぐに集まり、共に食事をする準備を整えていました。招待状がなければ、宴に出席することはできませんでした。この招待状は、イエスが世界中のすべての人々に与えた福音の約束なのです。

問題は、招待客たちが祝宴への招待を断った時に起こりました。彼らは皆、出席しない本当の理由を隠すような言い訳をしました。彼らの言い訳の文法から、彼らが決心したこと、そして後で後悔して祝宴に出席することは決してないことが明らかでした。彼らの断りは最終的なものでした。

主人はいわゆる友人たち」に激怒した。召使たちに、宴に出席したいという人なら誰でも連れて来るよう命じた。普段ならこんな盛大な行事に招待されるような人ではない。足の不自由な人、目の見えない人、貧しい人—そんなことは問題ではない。招待は、信じて受け入れる人なら誰にでも開かれているのだ。主人は準備が無駄にならないよう、満員の客を招きたかった。結局、宴は大成功に終わった。

御国における永遠の救いは、神がすべてをあらかじめ完全に準備しておられることを前提とする、無償の賜物です。必要なのは、招きを額面通りに信じ、それに応じることを決意することだけです。それが御国における永遠の命の本質です。つまり、招きを断る者だけが、御国に招かれないのでした。

イエスはパリサイ人の宴会に招かれました。イエスは喜んでその招待を受け入れ、出席されました。それは、まさにそのパリサイ人たちに、永遠の御国の宴会への父なる神の招きを差し出すためでした。御国の宴会への参加の「祝福」について敬虔に語りながら、パリサイ人たちは実際には意味のない言い訳で招待を断っていたのです。彼らは既に決心していたのです。

ディリー・ジーザス・ニュース #205

より大きな規模で言えば、全国民がイエスを通して彼らへの神の招きを拒絶していました。その結果、福音は間もなく異邦人世界全体に伝わり、彼らは喜んで招きを信じ、大勢で祝宴に出席することを選んでしまう。父の家は、神の恵み深い招きに応じる人々で満たされるでしょう。このたとえ話は、イエスが最初に語った部屋の状況を描写するものであり、また、これから起こることの預言でもありました。

応用：

神は御子において、すでに私たちのためにすべてを備えておられます。御国における人生は、信じ、応答することを選ぶすべての人に惜しみなく与えられる神の豊かさの祝宴です。すべては、イエスへの私たちの信仰の応答にかかっています。

したがって、言い訳は神の豊かさにとって致命的な敵です。私たちは言い訳を使って、神の私たちへの御心を拒絶していることを隠そうとします。言い訳は自己欺瞞の致命的な形です。

あなたは今、不服従を隠している言い訳がありますか？

あなたはいつ、神の招きに応じますか？どのように応じますか？